

民具BANKとは

民具BANKは身体0ベース運用法が2021年より亀岡市を拠点として活動するプロジェクトです。このプロジェクトでは「食料銀行」を意味する社会福祉活動フードバンクのように、まだ使えるのに様々な理由で処分されてしまう民具を収集し、活用していくことを目的としています。身の回りにある自然など、地域と文脈のある素材に手を加えて作られた民具には、その地域で暮らす人たちの自然や暮らしの知恵が詰まっています。現代の大量生産の物質社会においてが失われしまったものが民具にはあります。

民具BANKでは収集した民具を物として保存することを第一の目的とはしていません。手で触れ、道具として身体で使うこと。また時には分解してその構造を学ぶなど、「身体」「技法」「素材」「風土」と様々な視点から活用することで、体験として身体で感じ、私たちの記憶として保存していくことを目指しています。

小屋も民具

農風景に佇む小屋は人が住まない農機具を保管するための小屋。人が住むことを前提としていないため、材料は身の回りで手に入る素材や不要となったものを転用し、またその工法は誰でもできそうな技術で作られています。小屋はちゃんとした建築物ではないために見過ごされてしまいますが、工芸品ではなく民具にあるような常用品の手つきと味わいがあります。

3つの視点から小屋を考える

民具BANKでは収集した民具や亀岡の小屋から素材の扱いや手技を学び、それらを生かした小屋づくりを一般公募メンバーとともに行います（※裏表紙参照）。この計画に合わせて小屋づくりに対する視点や考えを養うことを目的として3つのレクチャーを実施します。全3回のうち第一回の伊達伸明「素材の目利き」と第二回の伊藤暁「つながりを建てる」は小屋づくりメンバー以外の一般の方も参加いただける内容となっています。二回のレクチャーを通して小屋に対する新しい視点を持ち、何気ない農風景の楽しみ方を持って帰ってもらいたいと思います。

イベント申し込みについて

イベント詳細：民具BANKインスタグラム「[ningu.bank](https://www.instagram.com/ningu.bank)」にて公開
申込方法：件名を「小屋レクチャー申込み」、本文に参加希望回・氏名・メールアドレス・電話番号を記載の上、ningu.bank@gmail.com宛にメールをお送りください。

お問い合わせ：民具BANK＝Email: ningu.bank@gmail.com / Tel: 090 7112 8799

主催：身体0ベース運用法 民具BANKプロジェクト

協力：かめおか霧の芸術祭実行委員会 | 助成：地域交響プロジェクト

身体0ベース運用法

「身体0ベース運用法」は染色作家安藤隆一郎による「ものづくりの視点」から考える身体論です。「身体」と「もの」との関わりから生まれる感覚、運動、機能を「0」から見直し、人間が本来持っている「身体」の運用法を見出します。その「身体」とは医学やスポーツといった専門的なものではなく、私たちの身の回りにある「身体」です。2021年より民具を日常生活から身体を育むトレーニングマシンとして捉え、「民具BANK」プロジェクトとして収集活用する活動をはじめます。



安藤隆一郎

染色作家。1984年京都生まれ。京都市立芸術大学工芸科染織専攻修士課程修了。京都市立芸術大学染織専攻講師。 | website: <https://www.shintai-0-base.com> | Instagram: [shintai.0.base](https://www.instagram.com/shintai.0.base)

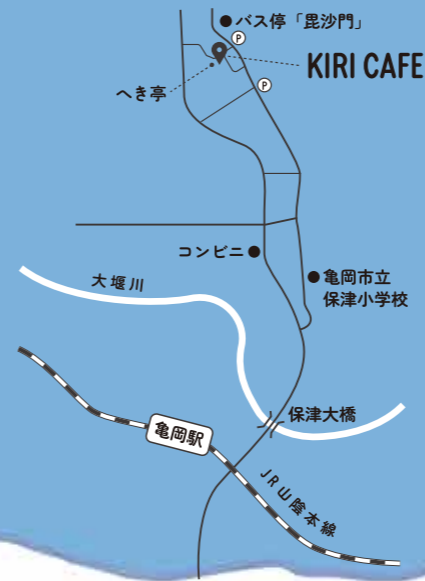
会場

KIRI CAFE

〒621-0004
京都府亀岡市千歳町毘沙門向畑39番地
TEL: 0771-20-8773

JR京都駅から亀岡駅まで快速電車で20分

亀岡駅より
車：10分 / 自転車：20分 / 徒歩：40分 /
バス：京阪京都交通バス 川東線 F11
千代川駅前「毘沙門」下車 徒歩2分
※駐車場あり



小屋づくりから考える暮らしの広げかた 一緒に作りませんか？

集まってきた民具に触れていると、そこから作り手、使い手の暮らしやその地域のこと。素材に対する目利きとそれを扱う手技、そして使う道具としての工夫や知恵など、多くのことが民具から伝わってきます。生活のあらゆる道具は量産されたどこかで作られたものとなり、住宅はプラモデルのように規格化され、手を入れ直すことよりも作り替えることを勧めてくる。素材を選び手を使って創意工夫し、作ることに想いを込めることが日常からなくなりつつある今、改めて作ることに取り組んでみる必要があるのではないかと思います。

美術品や工芸品ではなく、日常のありとあらゆる人の生きることの表現として民具から学び、地域の風土とつなげながら作りませんか？老若男女多くの人に門は開いています。

2021年度1月～3月にかけてまず1つ目の小屋づくりを行います。このプロジェクトは一度きりではなく、2022年度からは1つ目の小屋づくりを踏まえて次の小屋づくりを計画していきます。新しい小屋はメンバーのための小屋かもしれませんが、誰かに依頼を受けて作るかもしれません。経験を重ねながら地域とつながった小屋づくりを行うことを目標としています。

活動期間：2022年1月～3月（1月は週末、2月、3月は平日と週末）

募集定員：10名程度

参加対象：高校生以上・亀岡市及び近隣にお住まいで通える方

参加条件：定期的に参加できる方

参加申込：件名を「小屋づくり参加」、本文に氏名・メールアドレス・電話番号・お住まいの地域名を記載の上、ningu.bank@gmail.com宛にメールをお送りください。

活動内容：1月＝亀岡の小屋リサーチ

2月＝廃小屋の解体と差材集め

3月＝小屋のづくり

民具から

考える

暮らしの素材と知恵の循環法

何気ない農風景に佇む建物界の小さな巨人「小屋」
いろんな目線で覗いて見つかる暮らしの広げかた

第1回
素材の目利き

2022年2月6日（日）
講師：伊達伸明（美術家）

第2回
つながりを建てる

2022年2月20日（日）
講師：伊藤暁（建築家）

第3回
住への欲求

2022年3月20日（日）
講師：田中一樹（美術家・セルフビルダー）

民具 BANK

素材の目利き

風景から見捨てられたものを
ミクロな視点で見直す。

講師：
伊達伸明（美術家）

会場：KIRI CAFE

日程：2022年2月6日（日）

時間：レクチャー＝13:00-14:30 / ツアー＝15:00-16:30

参加費：¥1,000＋ワンドリンク注文

※亀岡市民・学生は¥500＋ワンドリンク注文

レクチャー

伊達氏の波板収集における素材の観察、分類方法や「建築物ウクレレ化保存計画」の建物に耳を傾ける素材選びを通して伊達伸明氏独自の素材の目利き方法を学ぶスライドレクチャー。

ツアー ※小屋プロジェクト参加者のみ対象

伊達氏と共に亀岡市曾我部にある農機具小屋を訪ね、レクチャーで学んだ波板収集方法を実践する野外ツアー。



伊達伸明 / だて・のぶあき（美術家）

1964年生まれ。京都市立芸術大学美術学部大学院工芸科修了。取り壊される建物をウクレレにして保存する「建築物ウクレレ化保存計画」のほか、街に点在する波板の撮影や各地で地域資源再発掘型の展示会の企画監修活動に関わる。最近の展示会（共同出品含む）：亜炭香古学（2012-2015/せんだいメディアテーク）、アートと考古学（2016/京都文化博物館）、とりのゆめ（2017/神戸アートビレッジセンター）、しらべの細道シリーズ（2017-2020/東北リサーチとアートセンター）、ミカエルさん（2019-2020/崇仁小学校）など。砂連尾理氏との「とつとつダンス」では演奏・朗読・道具制作等を担当。著書に「建築物ウクレレ化保存計画 2000.4-2004.3」（青幻舎）



つながりを建てる

地域、人とつながりのある素材から
建築すること

講師：
伊藤暁（建築家）

会場：KIRI CAFE

日程：2022年2月20日（日）

時間：レクチャー＝13:00-14:30 / 座談会＝15:00-16:30

参加費：¥1,500＋ワンドリンク注文

※亀岡市民・学生は¥500＋ワンドリンク注文

レクチャー

徳島県神山町の人々が集う「えんがわオフィス」や地域の山の丸太を建材とした「Week 神山」。古い蔵の素材を再構築して設計した「筑西の家」など、伊藤氏がこれまで手がけてきた建物の話を通して、建てることと人や素材の繋がりについて考えます。

小屋座談会

「小屋の本」の著者メンバーを交え、伊藤氏と共にそれぞれが収集してきたおすすめの小屋を紹介する座談会。何気ない風景に佇む小さな巨人の魅力について楽しく掘り下げていきます。

ゲスト：小屋の本（辰巳雄基・アトリエカフェ・ヤマサキケイスケ）



伊藤暁 / いたう・さとる（建築家）

1976年東京都生まれ。2002年横浜国立大学大学院修了。02～06年aat+ヨコミゾマコト建築設計事務所。07年伊藤暁建築設計事務所設立。17年～東洋大学准教授。2010年より徳島県の中山間地域、神山町にて地域活動と連動した建築設計活動に従事。古民家を改修した『えんがわオフィス（2013）』や町産の丸太材を使った宿泊施設『WEEK 神山（2015）』などを手掛ける。2019年、築90年ほどの蔵を解体・移築して建設した『筑西の住宅（2016）』で住宅建築賞金賞受賞。建築の建つ場所やそこで育まれてきた人間の営み、その場所にある時間の流れや歴史などを拠る所に建築を設計することを目指している。



住への欲求

小屋づくり参加メンバー限定企画

三者三様のセルフビルダーから
人が持つ「住」への欲求を問い直す。

講師：
田中一樹（美術家・セルフビルダー）

会場：滋賀県大津市比良

日程：2022年3月20日（日）

時間：ツアー＝13:00-17:00

ツアー

滋賀県比良で20年以上もの歳月をかけて自らの家を作り上げた田中一樹氏。セルフビルダーでもあり、美術作家としても活躍する田中氏は留まることなく自らの創造力と技術注ぎ、今なお建物を作り続ける。しかし、比良には全く違うタイプのセルフビルダーがさらにいた。「あんたも凄いやつがあるで」と知らされ田中氏が出会った「コンクリ山ー松田邸」。そして、「身の丈の家ー山本邸」。それぞれの考えをもとに作り上げられた家の魅力は三者三様である。田中氏の案内の元に3つのセルフビルド建築を巡るこのツアーは、私たち人間が本来持つ住に対する権利について考え、また欲求を再び燃やしてくれそうです。3人が築いた家を見れば「小屋なんか大したことない。自分でも作れる」と思うはずですよ。



田中一樹 / たなか・かずき（美術家・セルフビルダー）

1947年に青森県生まれ、1955年に京都に移り住む。1969年より現代美術研究所を主宰する保地謹也に師事し絵画の指導を受け、1974年まで行動美術協会一般会員として油画部門入選する。1992年から大津市比良にセルフビルドでアトリエ建設ははじめ、2006年概ね自力で完成させ、翌年京都市から転居する。2010年滋賀県大津市清陵高等学校卒業。2014年成安造形大学芸術学部デザインプロデュースコース卒業。近年の主な活動として滋賀県美展 立体部門（特撰・時事通信社賞/2021/滋賀県立美術館）、京展 立体部門（市長賞/2017/京都市美術館）など。その他の活動に「二人だけの劇場ゼザンス」「山小屋で」高林陽一監督の下、美術・装置を担当（2005/京都府立芸術文化会館）。第三回鳥人間コンテスト世界大会出場（飛行記録35メートル/1979）など活動は多岐にわたる。現在4月オープンめざし仮称バラックギャラリー奇朋亭を建設中

